



杉本 健吉 作

「遊蝶花」

画中のパンジーは美にいきいきと描かれています。花瓶や背景を含めてひとつの快いリズムを作り出しています。作者は、生涯にわたり、洋画・日本画という枠組みをこえて、自由に描き続けました。



三岸 節子 作

「火の山にて飛ぶ鳥」

本作品は、戦後ますます力強さを加えた作風をもとに軽井沢の山荘で鳥の飛ぶ姿を描いたものです。「火の山」とは近くの浅間山で、生命感にあふれる鳥の飛ぶ姿に、自らもそうでありたいという願いをこめて制作しています。



笠井 誠一 作

「赤いポットのある卓上静物」

静物画は、身近な物との対話から創作が始まりますが、次に対象物の配置の工夫によって様々な関係の面白さが見えてきます。これを両面の中に置き換えると構図になり、構図の追求が作者の長年のテーマになっています。



島田 章三 作

「花と人の空間」

キュビズム(立体派)を根底に叙情性ゆたかな画風で日常生活の「かたち」を追求し、「かたちびと」という言葉で表わされる独自の世界を構築。マチエール(絵肌)の複雑な変化などによって抽象画にも見えます。